

岩手の風土記シリーズ（19） ほず袋

皆さんは九戸村伊保内という町を知っていますか？実は筆者も名前だけは知っていましたが、昨年訪れる機会があり、初めて行ってきました。九戸といえば、「オドデ様」や最近よく目にする、「キングオブチキン」や「九戸政実」

で知る人ぞ知る所だと思う。過日とあるローカル番組で、「ほず袋」の話題がでたので、興味をもって出かけたのが12月初旬である。九戸郡伊保内とは、地理的に言えば二戸市と久慈市の間で、葛巻町の北側に位置する、山間部の町である。八幡平市の自宅からだと一般道で大体1.5時間程度の距離で、ルートの的には国道282号線を北上し、安代町から浄法寺



【九戸村の位置関係】

を抜けて国道4号線にでて、二戸市から東へ県道4

号線のルートになる。盛岡からだと国道4号線で一戸に出て、県道5号線のルートもある。この伊保内は、まさに山間の寒村という感じであった。ここは九戸政実の生誕地として町全体で観光PRをしていた。県北地方には、「伊保内の市さいつてほず買ってこい」という言い伝えがあるという。今回はこの「ほず」について解説しよう。岩手県には、例えば酔っぱらって正気をなくした人の事を言い表す、独特の方言がある。「ほずなし」とか「ほんつけなし」、またケセン地方では「ほでなし」ともいう。この「ほず」、「ほんつけ」、「ほで」は全て同じ意味である。どのような場面で使うかという



【伊保内のメイン通り】

で使うかという、例えばぐでんぐでんに酔っぱらった状態で帰宅したときに、「じゃ～、じゃ～、こんなにホズおどして！」とか「ばあ～！こんなにホズなぐなって！」という具合に使うようだ。さらには、とんでもない失敗したときの投げつける言葉として、「この～、



【圓通寺本殿】



【ほず袋】

ホデなしが！！」という使い方もあるようだが、やはり酔っぱらったときに使うのが標準的のようだ。この「ホズ」はもともとは仏教用語で「本地（ほんじ）」から来ていて、仏が人々を救うために神の姿になって現世に現れた姿に対して本来の仏を意味し、本来の姿や本性、本心を表すとされている。この本地がなまって、ホズ、ホデ、になったものと推定される。そして、伊保内付近では、ホズを落とさないようにという事で、「ほず袋」というお守り袋が出来たようだ。ほず袋を最初につくったのは葛巻町の「近誠（こんせい）」という文具屋さんで2009年頃に販売されたようです。それから九戸村でも作るべきという事で、圓通寺のご住職に相談して伊保内でも販売するようになったらしい。九戸では、このほず袋は圓通寺と道の駅おりつめのオドデ館で販売しているようだ。葛巻は元祖ほず袋で、九戸は本家ほず袋という事になるらしい。どちらもご利益は同じであるそうだ。圓通寺のほず袋はご住職の奥さん手作りで、完成したほず袋は、住職によって御祈禱が行われ、「お酒で失敗しないように」「知恵がつかますように」などと、願いが込められているとの事。ここの住職さんも、飲みに行くとき、ほずを落とせない時などはほず袋必携との事、またほず落としても構わないようなときは、ほず袋はもっていかず、心行くまで飲むそうです。またどうして伊保内の市でほず買ってこいといわれるかという、諸説があるようだが、有力なのは、この地は九戸政実が治めていた地であった、九戸政実とは豊臣秀吉に喧嘩を売った男として有名な武将である。九戸城



【本堂の中の販売所】

が最後の砦となって、結果的に政実が斬首の刑に処されたわけであるが、その時の家来の何人かが伊保内に落ち込み隠れ住んだという。この家来がなかなかの知恵ものであり、村人に対して様々な助言などをおこなったらしい。ただ直接村人がこと事を口にすることが憚られたため、「相談して知恵を授かってこい」という事の隠語として「伊保内の市さ行ってほず買ってこい」と言われたとの説である。なかなか納得いく説である。いずれにしても、居酒屋自宅では、おかみさんの目が厳しくて、ほず落とすくらい飲めるはずありません。外でほず落とすくらい飲めるような日が早く来ることを祈るばかりです。最後に伊保内の見どころをいくつか紹介しよう。まずは観光物産館である「まさざね館」である。併設してある観光協会の事務所で見どころを聞くのもいいだろう。中では「ほず袋」は売



【まさざね館】

が最後の砦となって、結果的に政実が斬首の刑に処されたわけであるが、その時の家来の何人かが伊保内に落ち込み隠れ住んだという。この家来がなかなかの知恵ものであり、村人に対して様々な助言などをおこなったらしい。ただ直接村人がこと事を口にすることが憚られたため、「相談して知恵を授かってこい」という事の隠語として「伊保内の市さ行ってほず買ってこい」と言われたとの説である。なかなか納得いく説である。いずれにしても、居酒屋自宅では、おかみさんの目が厳しくて、ほず落とすくらい飲めるはずありません。外でほず落とすくらい飲めるような日が早く来ることを祈るばかりです。最後に伊保内の見どころをいくつか紹介しよう。まずは観光物産館である「まさざね館」である。併設してある観光協会の事務所で見どころを聞くのもいいだろう。中では「ほず袋」は売

っていないが、特産品が数多く売っていた。名物はと聞いたところ「ソバかけ」、「麦かけ」との事、湯がいた後に、別売りのにんにく味噌をつけて食べるとの事であった。「ほず袋は」道の駅おりつめのオドデ館（本シリーズ第1回目で登場）で販売しているとの事であった。さらに市街地から少し北に行った所に、九戸神社があった。この近くには政実公の首塚もあったが、今回は九戸神社を参拝してきた。この神社は古くは「北辰妙見」「九戸妙見」と称し、842年の創建と伝えられる九戸村の総鎮守。祭神は、天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）と、宇迦之御魂大神（うかのみたまおおかみ）。明治元年より九戸神社に改称された。1575年に山火事に遭ったため、貴重な資料の多くは、焼失したが、妙見菩薩・毘沙門天・不動明王（鎌倉期作）は御手洗池に沈めたため守られた。1663年に再建したもだ。九戸政実とゆかりがあると思われる1538年の棟札などが納められている。1995年、神社近くに政実を祭る「政実神社」が建立された。時期が12月の初旬で大雪が降る前だったので、何とかたどり着けたが真冬の時期は峠越があるのでお勧めできない。帰りは通りを南下して隣接する葛巻町を通り、沼宮内経由であった。ほず袋に興味にある方は暖かい時期に是非いってみてはいかがか！



【九戸神社の大鳥居】



【九戸神社本殿】



【九戸神社の由来】



【隣接する政実神社】

参考資料

九戸村ホームページ

九戸村観光協会発行パンフレット

岩手放送「わがまちバンザイ」 11月4日放送 「九戸村伊保内」

広辞苑